TOPIX

2008年度 親子ものづくり体験教室 2

金属労協は、ものづくり技術・技能の伝承の一環として、次代を担う子供たちに対する「ものづくり教室」の推進を提唱、労働組合みずからもJC地方ブロックを中心に推進してきました。その結果、現在では、8都道府県で地方連合金属部門を中心に、JC加盟産別地方組織、加盟単組などの協力を得て実施されています。今回のトピックスでは、その中の秋田と長野の2県での取り組み事例を紹介します。

1 秋田県金属部門連絡会

初めての親子ものづくり教室

2008年8月9日、秋田県金属部門連絡会では初めての、親子ものづくり教室を、親子約100名の参加で開催致しました。ものづくりの楽しさを「内向きではなく外に向けて発信する」ことを目的として、秋田駅に隣接する拠点センターを会場に、金属労協・東北ブロックのサポートの下で、連合秋田・秋田県東北電力総連・秋田県労働福祉協議会・東北労働金庫秋田県本部・全労済秋田県本部・秋田県勤労者住宅生活協同組合等の協賛、また秋田県教育委員会・秋田市教育委員会の後援を受けての開催となりました。

対象は、小学校低・中学年とし、小さいときからものづくりの楽しさ、面白さを知ってもらおうと、「風車を作ってオルゴールを鳴らそう!」を合言葉に進めることとしました。時代を反映して、エコな発電用の風車をつくり、オルゴールを鳴らそうというものです。

会場には風車を回転させる扇風機が林立

どうやって子供たちを集めるかを考えたとき、組合の内部からではなく、小学校へ募集をかけてはどうかということで、県と市の各教育委員会に後援を依頼し、小学校でのポスター及びチラシ配布を依頼しました。約15校の小学校に配布して頂き、3

自動車総連秋田地方協議会副議長／スズキ部品秋田労働組合書記長
小玉　俊己

風車の組立てに親子で悪戦苦闘した1時間半

開始前、最終打合せするスタッフの皆さん

模型を使って町に明かりを灯している発電の仕組みを勉強！

オルゴール、
鳴るかな？

日間で募集定員の子供50名が集まりましたが、それ以降はお断りの対応に追われる状況が続きました。

開催費用につきましては、会場費・風車キット代だけで予算オーバーとなってしまうため、先の協賛団体から寄付金を頂くことで、開催することが出来ました。

ものづくり教室開催にあたっては、はじめに鈴木光一代表から、日本のものづくり産業の紹介があり、子供たちにも、ものづくりの楽しさ、面白さを体験して欲しいとの趣旨の挨拶がありました。

その後、電力総連の協力を受け、発電の種類・仕組みについて模型を使って講演を頂きました。手動によるモーターの回転での発電を体験し、町に明かりを灯している発電の仕組みが理解出来たものと思います。学校の勉強と違い、積極的に質問をしたり、子供たちの姿がいきいきと感じられました。

続いて、電機連合秋田地方協議会の加藤信和委員長より、風車の仕組みや制作方法について参加者多数のため、金属部門連絡会の幹事だけではスタッフが足りなく、各産別からも応援を得て、講師13名での対応となりました。

人目につくところで開催したため、当日も「何をやっているんですか?」「飛び入りで参加させてもらいたい」など、買い物客など多くの通行人からの反応もありました。

風車が回らなかったり、逆回転したり、オルゴールと発電の配線が逆に繋いであったり、約1時間半親子で奮闘し、悪戦苦闘の末に風車の回転でオルゴールが鳴ったときの、子供たちの目の輝きが大変印象的でした。

また、会場には、風車を回転させるために各産別から5台6台と持ち寄った計25台もの扇風機がところ狭しと立ち並び、清涼感を漂わせておりましたが、その様はまさに圧巻でした。

第一回ものづくり教室を無事に終えることが出来ましたが、反省点としましては、講師役のスタッフの人員不足、また勉強不足・技術不足により、スムーズな対応が出来なかったことです。

今後は、一回で終わるだけでなく、秋田県下を中央地区、県南地区、県北地区の3地域とし、各地域交代で毎年開催して行きたいと考えております。

親子ものづくり体験教室

❷ JC長野県連絡会・連合長野金属部門連絡会

達人のてほどきに、”次は、ぜんぶ作ってみたい！“子供たち

電池交換の実習―お父さんとの共同作業「大丈夫か？」「うん」

学校が夏休みとなった初日、08年7月26日、長野県飯田市「シチズン平和時計（株）本社」で、午前10時より16組45名の参加のもと第2回「親子ものづくり教室」を開催しました。IMF・JC長野県連絡会と連合長野金属部門連絡会が主催して、金属労働者の親子が協同作業で「ものをつくる」喜びと感動を分かち合い、働く家族と産業を理解してもらいたいと昨年から行っているものです。昨年の1回目から、金属産業加盟組合の企業にて行い、企業紹介や工場見学を通してその企業を知ってもらう目的で開始しました。本年もJAM平和時計労働組合と会社の協力を得て、長野県最南端の飯田市で開催しました。

まずは歴史の勉強！

絵本で会社の歴史を解説、戦後の産業転換のきっかけとなった疎開工場。

従来から、シチズン平和時計（株）では地域産業の次世代育成に協力し、小学生の工場見学を積極的に受け入れてきました。

今回は飯田市以外の子供たちも迎えて、シチズン平和時計（株）が東京の空襲を逃れてやってきた疎開工場を出発としていること。戦後、その工場を地元企業として再出発させるにあたって、願いをこめて「平和」時計と名付けたことを、子供たちに

電機連合長野地方協議会
事務局長　伊東　浩

まずは絵本で会社の歴史の勉強を！

説明しました。小学校の子供たちの理解を助けるために、平和時計（株）では絵本を企画作成して、地域の産業の支えは、何よりも「平和」と「環境」であることを訴えた力作の絵本です。

腕時計を毎日10万個作る工場の見学

高級腕時計を手作りするマイスター工房の見学。

午前中は、本社工場の見学を3班に分かれて行いました。平和時計の特色は、毎日10数万個の腕時計の内部部品（ムーブメント）の製造と並んで、高精度の高級腕時計を、10数名の高技能女性社員によって手作りで作っているところです。

ガラス越しに一級時計技工士たちのマイスター工房を見学した子供たちは、手形と顔型がガラスに残るほど、彼女たちの指先を見つめ続けていました。

親子での共同作業を満喫！

マイスターの女性社員の皆さんから腕時計の仕組みの説明を受ける

マイスター達の指導で電池交換

「時計の歯車」と呼ばれることは悪口じゃない。

平和時計（株）さんの社員食堂で社員の方と同じ昼食をたべ、午後は会議室で、腕時計を動かす歯車の数と組み合わせの説明を受けたあと、大人も子供も各自1個ずつの腕時計を手に取って電池交換の実習を行いました。皮脂やほこりを受け付けないために指サックをしたのち、マイスター達の指導で裏ぶたを開け次に特殊工具を使いながらの作業は、とても緊張感があり、親子で共同作業を満喫しました。そのあとは、電波時計の時間の合わせ方を教わり実習しましたが、なかなか電波受信が悪く針も動かずやきもきした時間を過ごしました。

我々金属部門連絡会も、興味を引く企画を！

今回は県内最南端での開催であったが、昨年出席された親子が楽しかったからまた来ましたと言っていただいたり、子供たちからはもっと難しい作業でもいいよ！とか、こういう事もしてと、いろいろなアイデアをアンケートでいただきました。

夏休みは「親子ものづくり教室」と言っていただける様に、我々連絡会も興味を引く企画を創造し、多くの子供たちに参加してもらうよう頑張ります。また、その子供たちが将来ものづくり産業で働いている事を夢見ながら、09年も「親子ものづくり教室」を開催していきます。